

Title	日本の医薬品企業の欧州進出について
Sub Title	
Author	植田英人(Ueda, Hideto) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第816号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0816">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0816</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	植田 英人 (エーザイ株式会社)	主査 小林 規威 副査 青井 倫一 姉川 知史
所属	小林 規威 研究室	

## 日本の医薬品企業の欧州進出について

日本の医薬品産業は、現在国際化の端緒についた段階といえる。その段階において、これら医薬品産業は様々な形で国際化の展開をしている。そこで私は、医薬品産業がどのような順序で国際化を行うことが効率的であるかを検討すべくこの論文に取り組んだ。特に統合まじかの欧州への進出に興味を持った。

研究のフレームワークとして、ラグマンの内部化理論を選んだ。ラグマンの経済性を評価する方程式を一部変更して使用した。この方程式にモデル化した数値をあてはめることにより、効率的海外進出の方法を探索した。

研究の順序として、地域を限定しないで国際化の方法について、どのような方法がよいかを経済性の評価を基準に検討し、その後欧州について調査することとした。比較の対象とした進出方法は、医薬品の特殊な条件を考慮し、ライセンスと海外直接投資とした。

論文は、第1章で問題意識を明らかにした。次いで第2章では、本論文の全体を理解する上で必須と考えられる医薬品産業の実態を明らかにした。第3章において、方程式に具体的数値をいれるためのモデル数値を設定した。この数値をもとに地域を限定しないまま、経済性の評価をし、国際化についての結論を出したのが第4章である。その結果、研究開発の負担ゆえ、国際化には当初はライセンスが有利であり、その後海外直接投資による国際化をはかるべきという結論に達した。

第5章以降で、欧州に対する進出について論を進めた。まず、EC統合を含む欧州の特殊な事情を述べた。第6章で、特殊な事情を考慮して、第3章で設置した数値の変更を行った。第7章で経済性の評価を実施した。

欧州への進出についても、ライセンスから海外直接投資に移行することが望ましいというラグマンとは異なる結論を得た。